



熊谷孝太郎
間世潜
時の彼方へ 函館から

熊谷孝太郎《大門入口前 電車通り》大正12(1923)年頃

熊谷孝太郎
間世潜
時の彼方へ 函館から

間世潜《晩鐘》1951(昭和26)年頃撮影

Hakodate Photography

The Work of Kumagai Kotaro and Mase Hisomu

Hakodate Photography

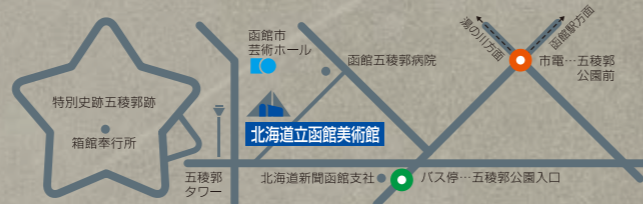
The Work of Kumagai Kotaro and Mase Hisomu

北海道立函館美術館

2024年4月27日[土]～6月16日[日]

■開館時間:9:30-17:00(入場は16:30まで)
■休館日:月曜日(ただし4/29、5/6は開館)、4月30日(火)、5月7日(火)

※展覧会及びイベントの内容は、やむを得ず変更となることがあります。その場合は、当館ホームページおよびX(旧Twitter)、Facebookにて発表いたします。



■交通案内

- 市電:「五稜郭公園前」下車徒歩約7分
- バス:「五稜郭公園入口」「芸術ホール前」「五稜郭病院前」「五稜郭」下車徒歩3～10分
- タクシー:JR函館駅より約10分/函館空港より約20分
- 駐車場:函館市芸術ホール駐車場をお使いいただけます。
※当館ご利用の方は駐車料金が2時間まで無料になります。

北海道立函館美術館 HAKODATE MUSEUM OF ART, HOKKAIDO

北海道立函館美術館

2024年4月27日[土]～6月16日[日]

■開館時間:9:30-17:00(入場は16:30まで)
■休館日:月曜日(ただし4/29、5/6は開館)、4月30日(火)、5月7日(火)

※展覧会及びイベントの内容は、やむを得ず変更となることがあります。その場合は、当館ホームページおよびX(旧Twitter)、Facebookにて発表いたします。

北海道立函館美術館 HAKODATE MUSEUM OF ART, HOKKAIDO

写真展「熊谷孝太郎 間世潜 時の彼方へ 函館から」

主催:北海道立函館美術館
共催:北海道新聞函館支社
後援:函館市、函館市教育委員会、NHK函館放送局、FMいるか
協力:一般財団法人日本カメラ財団、北海道旅客鉄道株式会社函館支社、五稜郭タワー株式会社
函館美術館ボランティアいちいの会
企画協力:はこだてフォトアーカイブス

観覧料:○一般/920(720)円 ○高大生/610(410)円 ○小中生/300(200)円

●()内は前売、リピーター割引、どうなんアートリンク、および10名以上の団体料金 ●親子割引など、お得な料金もあります
●無料になる方:身体障害者手帳や療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方(マイリロID利用可)及びその介護者(1名)など
●学校の教育活動で利用する場合は無料

〒040-0001 函館市五稜郭町37-6 TEL.0138-56-6311
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/hbj/>





①



②



③

ストリートスナップ

当時北日本随一の活気あふれる函館を縦横に歩きこの街を活写した。1920年代函館にはロシア革命から逃れた人、ソ連の貿易関係者等多数のロシア人が滞在していた。

- ①恵比寿町 花束を持ったロシア人
- ②蓬萊町
- ③末広町奥に旧今井アパート



④



⑤

上磯風景

写真に目ざめた熊谷孝太郎は生まれ育った上磯の光景を丁寧に持って切り取ってゆく。



⑥

家族の肖像

早くに親を失い新しい家族はかけがいのないもの、家族に向ける目は愛情あふれる。

④浅野セメント北海道工場(現太平洋セメント上磯工場) ⑤上磯郊外を走る馬車 ⑥上磯の浜辺 家族を撮る

大正から昭和の激動期
同時代を生きた写真家
二人が時を超え、巡り合う

熊谷孝太郎



従軍記

北海タイムス記者として中国、シンガポールに赴き、統合された北海道新聞記者では占守島、青森大湊で取材活動を続ける。



永井荷風
東京に移り 多くの美術家文化人との交流を持つ



②



③

ポートレート

東京で北海道新聞退社、文化部長の経歴もある間世は芸術・芸能に深い関心を持ち続けた。折々の記録。



修道院

戦争の惨禍を心深くした小林政次(間世潜)は戦後ライフワークとして故郷函館の修道院撮影にのめり込む。

- ①トラピスチヌ聖堂 ②祈り
- ③トラピスト修道院 木の伐採に向かう ④サボ(木靴)を作る



④

2024年4月27日[土]～6月16日[日] 北海道立函館美術館

- 開館時間:9:30-17:00(入場は16:30まで)
- 休館日:月曜日(ただし4/29、5/6は開館)、4月30日(火)、5月7日(火)



●美術講演会

日時:4月27日(土) 14:00～(90分) 講師:大日方欣一 氏(九州産業大学芸術学部教授)
会場:当館講堂(要観覧券)

●担当学芸員による見どころ解説

日時:5月18日(土)、6月8日(土) 各回14:00～(60分) 講師:当館学芸員
会場:当館講堂(要観覧券)

同時開催

|ミュージアム・コレクション〈常設展示室〉|

生誕120年 長谷川湊二郎とその兄弟 ～越境する表現者たち～

4月27日(土)～7月4日(木)



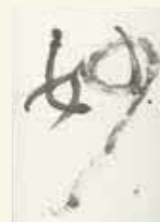
函館出身の長谷川湊二郎とその兄弟たち(海太郎、潜、四郎)。それぞれ海外へ飛び立ち、研鑽を積んだ彼らの個性あふれる作品世界をめぐります。

長谷川湊二郎(マンダリン)1923年

|ミュージアム・コレクション〈鶴亭記念室〉|

金子鶴亭 I期 漢字にこめた心

4月27日(土)～9月23日(月・祝)



漢字は、たった一文字で文字の意味を表し、様々な書体で表現されることで書家の心情を伝えます。一字書や少字数書のほか、詩文書などに見られる漢字に注目し、その魅力に迫ります。

手島石卿(妙)1968年

■観覧料

一般260(210)円、高大生150(110)円 ※ミュージアム・コレクション両展共通 ※()内は10名以上の団体料金
●無料になる方:中学生以下、65歳以上、身体障害者手帳や療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方(マイリDID利用可)及びその介護者(1名)など ●高校生は毎週土曜日及び学校の教育活動で利用する場合は無料



熊谷孝太郎(1893～1955)は、上磯町(現・北斗市)の裕福な地主の家に生まれました。函館中学(現・函館中部高校)に入学するも、結核を患い中退。以後、病気療養の傍ら、趣味の写真や絵画制作などに親しむ生活を送ります。大正後期から昭和初期にかけて、函館十字街を中心とした繁華街とそこを歩き交う人々の様子を集中的に撮り続けています。しかし、こうした写真群は、あくまで個人的な趣味として撮影され、生前ほとんど発表されることはありませんでした。



間世潜(1904～1959 本名、小林政次)は、函館に生まれました。写真館での見習いを経て1929年に北海タイムスに入社。日中戦争勃発後は従軍記者として活動しました。戦後は北海道新聞東京総局に勤務後独立、谷中初音町にスタジオを構えフリーランスの写真家として、舞台写真や人物写真などを撮影しています。なかでも、5年近い年月をかけて、函館近郊にあるトラピスチヌ修道院での生活を取材、撮影した写真集『ライカ写真集トラピスチヌ修道院』は生涯の代表作となりました。

本展では、ビンテージプリントに加え、残されたネガから新たにプリントし、函館ゆかりの二人の写真家の作品を紹介します。